

朝日 歌壇 俳壇



＜日曜日のブローチ 07＞ junaida

俳句時評 蛇笏賞「高天」の芸

岸本 尚毅

今年の蛇笏賞に決まった三村純也「高天」（蛇笏版）に「雪ちらとパレンタインの日なりけり」という句がある。この表現はよくある。サンプルとして俳誌「ホトトギス」一九九八年六月号を調べると、「義理果たすパレンタインの日なりけり」のような句が十数句あった。このほか「妻と娘に」「厨に娘」「品選ぶ」「縁薄き」「無視できぬ」「まなきしの」「気がねなき」「夢かなふ」「ほろ苦き」「面映ゆき」など。多

くの句は「パレンタインの日なりけり」の上五に、パレンタインに関わる人の様子や心の動きをそのままの形で読みこんでいる。ところが「雪ちらと」は異例だ。パレンタインとは直接の関係がない。おや、雪だ。そういえば、今日はパレンタインだった……。そんなことをとりとめもなく考えている初老の男性の心理（懐かしさや寂しさ、ほのかな含羞など）が、そこはかとなく伝わってくる。

＜丁子遊き音等老いゆく虚子忌かな＞と詠んだ三村は、高浜虚子の「ホトトギス」の系譜の俳人。芸能などの文学研究者でもある。類型の反復と変奏を通じて洗練の度を高めてゆく「芸」の側面が俳句にもあることを、この句集は強く感じさせる。『陵の映り余れる代田かな』（木渡日）の動くと思えば穴感の写実。『謡初微睡ながらも膝揃へ』（年寄の隠れ遊びの春の宵）の洒落。『すべてこの時に限つて人が来る』（可笑しみ。これら句には、斬新さや特異な個性とは次元の違う「芸」の魅力がある。（俳人）

風信

日本歌人クラブ各賞 日本歌人クラブ大賞は、「抒情の構造 変われたく故郷」の位相」ならびに「三年有半」を中心とした長年の功績に対して内藤明さんに贈られた。日本歌人クラブ賞は黒木三千代さんの「草の譜」、同新人賞は久永草太さんの「命の部首」、同評論賞は内藤明さんの「抒情の構造 変われたく故郷」の位相」が受賞した。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

高野公彦選

麗らかな昭和と共に歩み来て迎える百年百歳の春
（茨城県）渡辺たかし
北国に桜前線到れりとニュースは伝ふ平和を
（横浜市）山田 信子
すぐ「回天」脳裏掠める日曜のニュースで笑
みて言ふ「魚雷バット」（京都市）森谷 弘志
一日に東奔西走20キロ自転車に乗り走るケア
マネ（横浜市）太田 克宏
除染して土入れ替えた菜園に蜜蜂が来す実ら
ぬ毎（福島市）亀岡 広子
風景と風土の違い教わりぬ馬場あき子さん退
任イベント（奈良市）山添 聖子
関税も停戦案も揺れ動く真の理念を持たぬト
ランブ（観音寺市）篠原 俊則
血圧値心拍体温範囲内九十五歳深呼吸吸
（周南市）松本 茂
溪流の解禁四月一日の残雪に見し熊の足跡
（五所川原市）戸沢大一郎
三年生最初の茶道部へ行く朝にかばんに入れ
る白いくつ下（奈良市）山添 葵

【評】1 首目、今年百歳の人にはまさに昭和と共に歩んだ人。感無量の人生だろう。2 首目、桜前線北上のニュースは、すなわち平和のニュース。3 首目、魚雷バット→人間魚雷→回天、という連想。4 首目、ケアマネの仕事の苛酷さが伝わる。

永田和宏選

キャンパスにひびく男いて立て看製作
分業だった（大和郡山市）四方 護
買取りの手が無造作に撫でまわし妻の遺品に
値腹は付かず（高松市）島田 章平
赤ちゃんの泣き声聞こえる病室で流産の妻と
食べる夕食（さいたま市）片岡 輝雄
無人機があれば特攻無かりしかと思ひたり
知覧の野辺で（取手市）緑川 智
戦争の話を聞きたくない人よ行きたくなくて
も行かされたのだ（長門市）松岡 加恵
花吹雪去年は一緒に歩いたわさうかこれが
「せつない」なのか（神戸市）辻 美穂
散歩用病院用の別ありて歩き易きと脱ぎ易き
靴（焼津市）増田謙一郎
山沿いのケアハウス出て散策の母の三歩に合
わせる一歩（横須賀市）阿部 文彦
人生の残り時間は短い暇な時間はたっぷり
とあり（愛知県）山田 真人
どちらからともなく言ひし「もう帰るあなた
とふたり日が暮れるまで（豊中市）夏秋 淳子

【評】四方さん、立て看作りは学生運動の花の一つだった。分業だったのか。最近、立て看を禁止する大学もあるというから驚く。島田さん、妻の愛用した品々が無遠慮に撫でまわされ値踏みをされる耐え難さ。片岡さん、何とも切なく辛い時間。

川野里子選

想像す遮光器土偶を見つめつむかし呼ばれ
たほんとうの名を（春日部市）宮代 康志
濁り水だから青空映つて僕の知らない大阪
の街（筑後市）近藤 史紀
☆館内の鳥が骨折した事も日誌に綴る守衛の仕
事（熊本市）貴田 雄介
指先で舟の形を描いてるような指揮者と合唱
をする（奈良市）山添 聡介
☆ゴミ捨てと掃除が仕事の「先生」は非正規保
育士のわたくしのこと（相模原市）榎本 ハナ
少年に見せる上手な殺し方ランナーを刺す野
球教室（横浜市）山田 知明
闇米を運びし戦後の旧道も山に吞まれて鎮も
りかへる（生駒市）辻岡 英雄
ハイエナの気持ちだらうか弁当の半額シール
を群れて待つとき（盛岡市）榎本 拓
父の知らぬいいこと何があったのか風呂から
聞こえる娘の歌声（朝霞市）岩部 博道
俺たちは大人になっていくことを「成長」と
呼びなるべく避けた（堺市）江口 智幸

【評】一首目、本当の名前には古代人の心や世界観が込められていたはず。二首目、歴史の深い都市だからこそ映せる青空。六首目、「殺し方」「刺す」、穏やかではないが野球の話だ。十首目、十七歳の作者の大人になることへの怖れと抵抗だ。

佐佐木幸綱選

＜退会＞をタッチしグループライン消し職場
去りたり夫の介護に（神奈川県）富田 茂子
☆館内の鳥が骨折した事も日誌に綴る守衛の仕
事（熊本市）貴田 雄介
眼のカバー外され光が流れこみ世界の真中に
執刀医の笑み（調布市）柳沢 英子
☆ゴミ捨てと掃除が仕事の「先生」は非正規保
育士のわたくしのこと（相模原市）榎本 ハナ
初めての朝の放送いつもより早口になる最後
の一行（奈良市）山添 聡介
風邪引いて高熱出した子の熱さ咥えられたる
乳首が感傷す（ひたちなか市）安澤 美幸
骨折でわかつたことは指は片手で握れるパン
も作れる（枚方市）小林 孝恵
カルガモの列の警備に切り替えて指差しなが
ら車面を止める（東京都）津和野次郎
お茶会で今年も迷う桜餅葉っぱは刺がすか葉っ
ば食すか（松山市）橋田 理恵
思い出を編むのが怖い特養の祖母への帽子は
毛糸玉のまま（柏市）伊藤 智紗

【評】第一首、作者の思いの深さと決心の固さが伝わって来る。これから新しい生活がはじまるのだ。第二首、病院とか図書館など、公共の施設で守衛の仕事をしている作者だろう。日誌を書くという時点をクローズアップして、うまい。